

環流



第196号 令和8年3月13日

<目次>

児童の活動：手宮中央小学校……P1
 巻頭言：小寺友興 校長……P1
 研究指定校・団体の研究会等……P2
 第14次研究 公開検証授業……P3
 教育研究所情報：
 令和7年度教育研究所の歩み……P4



【おたる案内人ジュニア観光ガイド】

旧色内小学校から引き継ぎ、5・6年の総合的な学習の時間で取り組んでいます。



【開校10周年記念式典】

子どもたちが、統合前4校の歴史と校歌を発表しました。



【雪まつり】

旧北手宮小学校から引き継ぎ、毎年2月に実施しています。



「地域とともにある学校」の具現化を目指して

小樽市立手宮中央小学校 校長 小寺 友興

本校は、児童数の減少に伴い、それまでであった手宮小学校、手宮西小学校、北手宮小学校と色内小学校の一部を統合して、平成28年(2016年)4月に開校し、早いもので今年度10周年を迎えました。統合した学校の関係者や保護者、地域住民の期待を一身に受けて開校し、また、令和元年度(2019年度)からは、学校運営協議会制度を導入し、コミュニティ・スクールとして、地域の方々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」の具現化を目指してきました。

本校が現在行っている教育活動の中には、「おたる案内人ジュニア観光ガイド」や「雪まつり」をはじめ、統合前の学校から引き継いでいるものもあります。開校してからまだ10年の新しい学校ではありますが、統合前の学校が歩んできた歴史や伝統の重みを改めて実感しています。

昨年11月には、たくさんの来賓、保護者、地域の方々にご参列いただき、開校10周年記念式典を開催しました。式典の中で、本校の児童が統合前4校の歴史と校歌を発表し、参加した方々からは、「母校の校歌を久しぶりに聞くことができ、とても懐かしかった」「子どもたちの発表が素晴らしかった」との声を聞かせていただきました。記念式典を含め、この1年、様々な場面で地域の方々に学校にお招きし、日頃から温かく見守ってくれていることへの感謝の気持ちを伝えるとともに、子どもたちが楽しく学校生活を送っている姿、行事等で生き生きと活動する姿をご覧いただくことができました。また、本校の子どもたちにとっても、「自分たちはたくさんの方々に温かく見守られている」ということを実感する1年になったことと思います。

開校から10年目を迎えた今年度を契機に、これまで本校が繋ぎ、築いてきた歴史と伝統を継承しつつ、引き続き、地域の皆様と手を携えながら、次の時代を生き抜く子どもたちの資質・能力を育む、新たな学校文化の構築を目指していきたいと考えています。

令和7年度 「調査研究活動事業研究指定校・団体の研究について」

令和7年度調査研究活動事業「研究指定校・団体研修発表会」が令和8年1月30日(金)に実施されました。各学校・団体の代表者が3分程度で研究内容や活動について発表を行い、お互いに共有することができました。各学校・団体の発表の主な趣旨等については次のとおりですが、詳細については後日研究集録という形で各学校等に配布されますのでご高覧ください。

学校・団体名	指定	発表の主な趣旨等
稲穂小学校	推進校	研究で目指す「主体的に学ぶ姿」について、各ブロックでキーワードを設定するとともに、研究を「自分事」として捉えること、授業づくりや協議を教師の「本音」で語り合いながら「主体的に学ぶ姿」に向かって研究を進めた。
花園小学校	推進校	児童の「多角的な見方・考え方」を育てるための「問い返し」や促しを意図的に行い、一人ひとりの思考を揺さぶる手立てとした。また、低位の児童であっても自分の考えを価値付ける手段としてICT機器の有効活用を図った。
山の手小学校	推進校	研究では、子どもたちが主体的に学びに向かわせるために「自己調整力」の育成を目指した。国語科を通して「子どもを主語にした複線型の授業づくり」を進めた。また、「学習の土台」を意識した授業・活動づくりを行った。
潮見台小学校	推進校	算数科を研究教科とし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して研究を進め、これからの授業の在り方について共通理解を図った。
桜小学校	推進校	子どもたちが「自分自身で選ぶ場」を単位時間の授業や単元内に位置付けたことで、主体的に学ぶ姿が見られるようになった。また、ICT端末の活用に向けた実践交流を積極的に行った。
望洋台小学校	推進校	授業づくりに「教師と子どもが『学びのゴール』を共有する」、「子どもが自ら『選択・決定・調整する』場を設定する」、「子どもが『学んだことを働かせる』場を設定する」の3つの視点を設定し、研修を進めた。
銭函小学校	推進校	「ゆだねる」「コーディネート」を研究のキーワードに設定した。学びをつなぐ教師の見取りや考えを深める場の設定を大切にしながら、「主体的に学び、高め合う子どもの育成」を目指して、研究を進めた。
高島小学校	推進校	研究の視点を「自ら学びに向かい、他者と学び合うための手立て」「見方や考え方を働かせながら学ぶための手立て」とし、授業の中で「自分の考えをもつ」場面を位置付けることを大切にされた。
西陵中学校	推進校	研究活動では学習方法や学習のまとめ方を生徒が選択する場面を設定した。このことにより活動への集中力が高まり、主体的な取組が見られるようになった。また、生徒に「学びの探究プロセス」を意識させる授業改善を進めた。
菁園中学校	推進校	授業改善として、生徒が自分の考えを他者へ伝えるとともに、他者の意見を取り入れる場面を多く設定した。また、「見方・考え方を働かせ、探究する活動を充実させるためのICT機器の活用」を重点に取り組んだ。
奥沢小学校	交流校	「心理的な安心がある授業づくり」を目指して研究を進めた。単元のゴールを明確にしたことで、子どもたちが意欲的かつ主体的に学習に取り組む姿が見られるようになってきた。
北陵中学校	交流校	多様な学びのために生徒自身に選択肢を提供する、授業のポイントや指示を可視化するなど、UDの視点を取り入れた「わかる」を実感できる指導の工夫について校内研修を進めた。
朝里中学校	交流校	「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現のため、生徒は課題に対して粘り強く取り組むための指導、教師は基礎基本を大切に、生徒に教えずぎない指導の工夫を中心に研修を進めた。
小樽市算数数学教育会	推進団体	今年度は、「個別最適な学びの工夫」「協働的な学びの工夫」「一体的な充実に向けた工夫」について、学習会や公開研究会を中心に研究を進めた。
小樽市社会科教育研究会	交流団体	研究の視点を「地域とかかわり学びつづける子どもの育成」「みがき合いながら課題の追究が深まる学習の構成」「もの見方や考え方、個と集団を高める教師の力量の向上」とし、郷土の素材を生かした授業づくりを行った。
小樽市複式教育研究会	交流団体	複式校(塩谷小、張碓小、忍路中央小)の公開研究会を中心に、各校の「学びの進め方」の実践事例を共有し、複式授業において効果的な指導の在り方を研修した。
後志道徳教育研究会小樽支部	交流団体	実践的な指導力の向上を図るため、授業研究を中心に活動を進めた。後志道徳教育研究会研修会では、道徳科の授業づくりについて、発問構成・構造的な板書についての発表を行った。
小樽市学校体育研究会	交流団体	研究主題「自ら学び、高め合う体育活動の創造～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた体育活動の創造～」に沿って、研究授業を行った。学校体育研究大会北海道大会に会員が参加し、最新の情報を共有している。
小樽英語教育研究会	交流団体	継続した英検学習会は受講者の技能や学習意欲の向上につながっている。研究協議・学習会では、ICTの有効活用、ALTとの協働の在り方、授業実践の具体的な方策について研究を深めた。

第14次研究「公開検証授業」を実施しました

今年度、手宮中央小学校で行われた教育研究所の研究主題解明に向けた公開検証授業について紹介させていただきます。

なお、本授業の指導案等の詳細は研究紀要第51号に掲載されておりますので、ぜひご高覧ください。

【村田あゆみ研究員の検証授業について（手宮中央小学校5年生：国語）】

日時 令和7年12月8日（月）

単元名 伝記を読み、自分の生き方について考えよう

読む／「やなせたかし -アンパンマンの勇気」 3／5時間目

（授業について）

- ・本単元「読む／伝記を読み、自分の生き方について考えよう」の学習では、伝記の中から特に心に残ったり、心惹かれたりした叙述を活用しながら自己の考えを表現できるようにするものであった。
- ・子どもたちが単元の目標を共有し、単元の見通しを持ち、主体的に学習に取り組むことができるように、個別の学習課題を子どもたちが確認し、自力解決や協働学習などの学習形態を選択しながら、それぞれ選んだ人物に関するリーフレットの作成をしていた。
- ・子どもたちは前時までの既習を使って課題解決の見通しを持ちながら、指導者から指導や助言を受けて、友だちと自分の考えを広げていった。本時の最後に、自分の課題に対して、端末を使って振り返りを行い、次時に学習をつなげていた。

（授業者から）

- ・子どもたちには単元のゴールに向けて見通しを持って、限られた時間を意識して計画を作らせるよう指導してきた。
- ・自由進度学習では、個別に子どもを見取ることが大切だと思っている。見通しが持てない子どもには、早い段階で支援をするよう心がけた。
- ・何をやるのか、何を使うのか、誰を参考にするかなど、どのようにしてやるのかを子どもに考えさせながら学習を進めた。
- ・子どもたちは、他者の考えを参照し、自分の考えを修正し、深めるなど協働的な学びができていた。

（協議内容）

- ・単元を見通した学習が進められていた。
- ・教師の子どもたちへの声掛け、問い返しなどの支援がとてもよかった。一方、全ての子どもに対する見取りは難しいと感じた。
- ・ICTを活用しての学習の振り返りや資料の共有は、効果的であった。リーフレットづくりは、端末だけではなく書くこと（手作り）を選択させてもよいと思った。
- ・子どもたちは必要感をもって協働的な学びをしていた。
- ・教師は、今後、学習のファシリテーターとしての役割が重要となる。
- ・授業者は、一人一人に声をかけ、支援を行っていたが、全体で支援を共有することも大切だと考える。

（助言者から）

- ・単元のゴールを子どもがわかっていることが重要である。本時の「深めよう」のイメージを子どもたち全員が持てたかという、視点が大切となる。
- ・学習のどこを個別化にするのか、次に何をやるのかなど、教師が学習に関するタイムマネジメントをしっかりと行う必要がある。
- ・授業におけるAIやパソコンの活用は手段である。どのような場面で使うことが効果的かを考える必要がある。

教育研究所情報

令和7年度教育研究所の主な活動の歩み

教職員研修の充実にかかわる内容

- 1 研究員による教育研究の推進
 - 研究員会議を中心とした研究活動
(令和7年6月～令和8年1月, 9回の開催)
 - 検証授業の実施
(3回～小学校算数1回・小学校国語1回
中学校数学1回)
 - 研究紀要第51号の発行 (3月90部発行)
- 2 調査研究活動事業の推進
 - 研究推進校・推進団体 (10校・1団体)
 - 研究交流校・交流団体 (3校・5団体)
 - 公開研究会・公開授業の実施
(13校・6団体)
 - 教育講演会・講習会などの開催
(6校・3団体)
 - 市外公開研究会・実践発表会等への参加
(4校3団体, 参加12名)
 - 研修発表会の開催 (1月30日)
 - 研究集録の発行 (3月60部発行)
- 3 研修講座の開催
 - 環境教育研修講座『『新版小学校理科教材おたるの自然(デジタル版)』を通して』(R7.7.28)
(参加23名)
 - 公開検証授業(R7.12.8)(参加30名)
- 4 所報「環流」の発行(6, 9, 12, 3月)各号90部程度作成(教職員へはデータ送信)
 - 第193号「教育研究所の活動について」他
 - 第194号「環境教育研修講座」他
 - 第195号「研究推進校の実践紹介」「所内検証授業」他
 - 第196号「調査研究活動事業研究指定校・団体の研究会等」「公開検証授業」他
- 5 研究図書及び資料の収集と整備, 活用促進
 - 教育研究資料目録 第14集の作成
 - 研究図書の購入 74冊
 - 研究図書の貸出 95冊
 - 指導案データの作成, 発行

教育活動の充実にかかわる内容

- 1 学力検査の奨励
 - 標準学力調査
小学校3・5学年2教科 1,047名
中学校2学年3教科 605名
- 2 社会科副読本の活用の促進
 - 小学校社会副読本「わたしたちの小樽」
・令和6・7年度版を小学3年生に配布
・活用の手引きを各小学校に配布
・令和8・9年度版の改訂
- 3 理科教材の活用の促進
 - 新版小学校理科教材「おたるの自然」
・デジタル版の配信
・活用状況調査の実施
- 4 ふるさと学習の促進
 - 「教材『小樽の歴史』」
・小学5年生児童全員及び中学校に3冊配布
・活用状況調査の実施

教育相談の充実にかかわる内容

- 1 相談活動の実施
 - 相談件数 29件33回
(電話26件30回, 来所2件2回, メール1件1回)
- 2 スクールソーシャルワーカー(SSW)の支援
 - 支援の対象となった学校及び児童生徒
・小学校12校, 37名
・中学校12校, 33名
 - 学校への訪問
任意訪問 17回
定期訪問 前期29校 後期29校
 - ケース会議の回数 19回 16件
 - 研修会, 会議等の参加・実施
・SSW連絡協議会・SSW地域別研修会
・要保護児童対策地域協議会
・いじめ問題対策連絡協議会
・不登校対策連絡協議会等(以上, 参加)
・SSW活用等研修会(実施)

※上記の数値は令和8年2月末日現在

編集後記

上記のように研究所では、「教職員研修の充実」「教育活動の充実」「教育相談の充実」を柱に活動しています。所報「環流」では、今年度も研究所の活動や各学校・団体の取組について紹介してきました。今後も情報提供に努めてまいります。